

熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会 報告

(平成二四年一月〜一二月)

I 熊谷市史編さん委員会報告

事項を取りあげることとする。

商家・商人の住生活

西部地区の水の確保(水組合、井戸、用水)

藍作りや荒川・利根川の漁労などの生産生業

なるべく多くの地域の祭り

熊谷・妻沼という二つの町場の年中行事等

・口頭伝承については、その専門家の専門調査員を委
嘱することができ、特色が出せそうである。

② 資料編2「古代・中世」の刊行について

事務局より、進捗状況等について報告、その後、題
字や啓発方法について意見を求めた。

(委員からの意見)

・題字は活字よりも手書きで、分かりやすい字体がよ
い。

・販売については、各巻によって部数を変えることも

日時 平成二四年一月一九日(月)午後三時〜
場所 熊谷市立商工会館 三・一会議室

【概要】

1 委員長あいさつ

2 報告

① 市史編集会議、専門部会活動報告

② 事務局が行った基礎調査等報告

3 議事

① 資料編別編1「民俗」の編集について

飯塚好民俗専門部会長より、体裁及び目次等につい
ての説明を行った。

・なるべく熊谷の民俗の特徴を出すため、以下の

考慮に入れるべきである。

・公民館等で積極的に周知活動を行ってもらいたい。
また、講座での活用も図ってもらいたい。

Ⅱ 熊谷市史編集会議報告

日時 平成二四年三月七日(日)午後二時
場所 熊谷市立熊谷図書館 第二講座室

【概要】

1 経過報告

- ・平成二三年度編さん委員会報告
- ・平成二二年度編集会議報告
- 2 各専門部会活動報告

・(考古) 柿沼幹夫委員、(古代) 宮瀧交二委員、(中世) 高橋修委員、(近世) 北村行遠委員欠席により事務局、(近代) 村田安穂委員、(現代) 黒須茂委員欠席により事務局、(民俗) 飯塚好委員欠席により事務局、(妻沼聖天山の建築) 大河直躬委員欠席により事務局、(仏像) 林宏一委員より、それぞれの専門部会の

進捗状況や課題点等について報告を行った。

3 事務局が行う基礎調査の活動状況

・古文書、民俗基礎調査、廃棄行政文書の収集、埼玉県行政文書の調査、新聞調査、考古遺物の調査、整理等について事務局より報告を行った。

4 平成二四年度の計画について

5 アンケート調査について

・事務局より結果を報告。歴史的人物の発掘の必要性等の意見が出された。

6 熊谷市史研究について

7 その他

・昨年度までの編集会議で提案されたアンケート調査の実施や、仏像調査専門部会の設置等が実現した。ことについて、評価する意見があった。

(文責 蛭間 健悟)

III 専門部会活動報告

一 考古専門部会

考古専門部会長 柿沼 幹夫

平成二四年中において考古専門部会は、次のように三回開催した。

平成二三年度第五回 平成二四年 三月一〇日(土)

章目立ての検討、登載遺跡の絞り込み確定、新規実

測図化資料の実見・選出

平成二四年度第一回 平成二四年 六月 二日(土)

登載遺跡の確認・分量検討、

平成二四年度第二回 平成二四年 一月一八日(日)

東京国立博物館収蔵資料の扱い、補足調査の検討

部会開催により、登載遺跡とその分量の絞り込み

をほぼ固めることができた。検討結果による構成案

は、大概、次のとおりである。

第I章 熊谷の考古学 地理・古環境、概観、研究史

第II章 旧石器・縄文時代 概観、遺跡各説

第三章 弥生時代 概観、遺跡各説

第四章 古墳時代 概観、遺跡各説

第五章 古 代 概観、遺跡各説

第六章 中 世 概観、遺跡各説

別刷① 遺跡地図(時代別、地形図使用)

別刷② 利用の手引き 考古学上の用語解説

別刷②は、考古資料編では使わざるを得ない専門的な考古学上の時代区分や用語について、出来るだけかみ砕いて解説し、利用者の理解を支援しようとする意図するものである。

登載遺跡は、一五〇遺跡前後になる予定である。執筆は各章説を担当する専門調査員・特別調査員を中心にを行うが、これまで長年にわたって熊谷市の埋蔵文化財保護行政に携わってこられた社会教育課職員各氏にも遺跡各説の執筆をお願いすることで調整を進めている。

事務局を中心に行っている考古資料の実測図化では、中条遺跡や旧大里町船木遺跡出土資料などを対象に進め、ほぼ終了した。残る懸案事項は、東京国立博物館所蔵の妻沼経塚出土遺物、中条出土埴輪の熟覧・実

測であり、これについても、遅滞なく行えるよう準備を進めている。今後、考古資料編の平成二六年度刊行に向けて、執筆作業に鋭意取り組んでまいりたい。

二 古代専門部会

古代専門部会長 宮瀧 交二

本年度の古代専門部会の活動は、『熊谷市史 資料編2 古代・中世』の刊行に向けて、一部の原稿執筆と校正作業に専心した。この間、専門部会の開催はもとより、中世専門部会との連絡調整、事務局等の連絡調整等も必要に応じて適宜行った。

最終的に、『熊谷市史 資料編2 古代・中世』には、「第一章 編年史料」に奈良時代前(古墳時代)史料四点、奈良時代史料一一点、平安時代史料一七点(古代専門部会担当分)を収載し、また、「第四章 市内出土文字資料」には、木簡、刻書紡錘車、墨書土器といった近年注目されている遺跡出土文字資料を収載することが出来た。このような遺跡出土文字資料は、一般的に他の時代に比べてその僅少性が指摘されて

いる古代史料の不足を補って余りあるものであり、現・熊谷市域から出土している点において、当該地域の古代史を考える上での第一級の史料(資料)である。また、編纂史料等と異なり第三者の手が入らない一次史料(資料)である点も重要であり、こうした遺跡出土文字資料の収載は、『熊谷市史 資料編2 古代・中世』の特色の一つとなった。

平成二十五年以降の古代専門部会の活動は、平成二八年度に予定されている『熊谷市史 通史編・上巻(原始・古代・中世)』の刊行に向けての準備に入る予定である。具体的には、古墳時代から平安時代にかけての考古学的データを把握するために、考古専門部会との合同部会を開催し、通史編の執筆分担等を素描したい。また、通史の執筆には欠かすことの出来ない同時代の隣接分野の研究成果の把握・吸収にも努めたい。とりわけ、現在進められている、仏像調査の成果は大いに注目されるところである。美術史学の研究成果を踏まえた通史の叙述は、『熊谷市史 資料編2 古代・中世』の大きな特色となるであろう。また、旧地形の復原等をはじめとする歴史地理学の研究成果の把

握・吸収も不可欠である。

三 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

1 専門部会会議の開催

① 平成二三年度第二回専門部会会議

平成二四年二月一六日 東大史料編纂所

提出された執筆原稿についての細部について、確認作業を行った。また、刊行までのスケジュールや写真集についての協議等を行った。

② 平成二四年第一回専門部会会議

平成二四年八月一六日 熊谷市役所

校正ルールについて、各委員の校正原稿を持ち、より、細部について詰めめの協議を行った。また、刊行まで計画について協議を行った。

※このほか、古代専門部会長との打合せ(八月二四日)や、部会長と各委員との打合せ等を適宜行った。

2 執筆・校正について

平成二四年度の始めには、二三年度より始まった執筆を終え、校正作業に入った。掲載史料数は一、一〇〇点を超え、なるべく原本での校正を心がけたため、作業量は膨大となったが、各委員が精力的に活動を行った。その結果、校正作業も終了に近づいている。現在、二五年三月の刊行に向けて、最終的な編集を進めている。

3 石造物調査

① 旧熊谷市域別府・玉井地区調査

六月まで、昨年に引き続き、別府・玉井周辺地区調査を行い、一部を除き終了した。この地区全体で、板碑、五輪塔、宝篋印塔など四八八点を確認した。このうち、今回の調査で新たに確認できたものは二六九点、逆に確認できなくなったものが六八八点であった。

② 中世石造物調査会議

同年九月一六日、中世石造物調査会議を開き、昨年度の調査結果を報告し、本年度の調査計画を審議した。

③ 旧熊谷市城南西部調査

同年九月以降、大麻生・三尻及びその周辺についての調査を行っている。

四 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

近世部会では、平成二四年の主な活動として、平成二三年度第二回部会、平成二四年度第一回部会を開催した。平成二四年度はあと一回の部会を予定している。また、本年も史料所在調査をおこなった。以下、部会の活動内容について略述する。

平成二三年度第二回近世部会

(平成二四年二月二二日)

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、下奈良の飯塚誠一郎家文書(立正大学古文書研究会との共同調査)をはじめ四件の説明があった。つづいて現在調査中の文書

群について、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ二六件の報告をうけた。昨年度以前の調査継続中の古文書も残されているが、市内各所より貴重な古文書が随時調査されているとのことであった。このほか新たに受け入れをした文書群として、妻沼の小池瑞枝家文書の説明があったが、ほぼ近代文書とのことであった。

部会の議題として、第一回目の近世部会同様に文書館、博物館、図書館など他機関に所蔵されている市史関連史料の対応について検討がなされたが、なかでも下奈良の吉田市右衛門家文書は、市史編さんをおこなう上で早急に調査の必要性が求められ、東京大学法制史資料室をはじめとして各地に散逸している状況を鑑み、優先して調査に取り組むことが了承された。また、このほかに市外調査としては、駒沢大学文学部中野達哉研究室で購入された下奈良村文書の調査がおこなわれた。

・史料所在調査について

昨年度に引き続き、市内の史料所在調査をおこなうこととなった。本年度は、大幡、別府、星宮などの地域を中心に調査することが提案された。

・現地説明会の開催

古文書調査をおこなった飯塚誠一郎家文書の目録刊行を記念して、立正大学古文書研究会と市史編さん室によって現地説明会「古文書から読みとく下奈良の歴史」を平成二四年五月二〇日に開催した。

平成二四年度第一回近世部会

(平成二四年一月二日)

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、上奈良の篠澤靖雄家文書をはじめ六件の説明と目録データの配布がなされた。現在調査中の文書群は、東別府の田村五郎家文書をはじめ二〇件の報告をうけた。このほか新たに借用した文書群として、大塚の松岡清家文書追加分ほか一一件の説明があった。なお、購入史料に関していえば、本年度も市内の古文書が古書店の目録に掲載されたが、編さん室としては、なるべくこうした情報も収集しつつ、予算の関係もあるものの必要であれば購入していくことを基本方針の一つとした。

・史料所在確認調査の結果について

専門調査員による所在確認調査の結果報告があった。調査は平成二四年三月一七日(土)、一八日(日)の二日間おこなわれた。本年は、大幡別府、星宮などの地域を中心に調査をおこなった。大幡地区では大量の古文書群を見出すことができ、今後改めて本格的に調査をおこなう必要性について話し合われた。また、今回不在であった諸家の調査も含めて調査の継続について専門調査員よりの要請があった。

・史料所蔵機関所蔵文書の調査について

市史編さん室より他機関に所蔵される市内の古文書の報告をうけた。複数の機関に分散して所蔵される吉田市右衛門家文書の所在調査についての報告があり、このほかに群馬県太田市立中央図書館、埼玉県立文書館、駒沢大学の調査結果について説明があった。

・今後の調査について

中世部会の史料編の進捗状況を鑑み、次年度以降の近世部会の調査について検討がなされたが、次回の部会までに近世編の全体構成について、章立てなども含めて準備することが部会内で了承された。

五 近代専門部会

近代専門部会長 村田 安穂

1 平成二三年度近代・現代合同部会

(平成二四年二月一九日、商工会議所)

平成二四年度に向けて調査活動予定を確認し、調査可能日数、調査機関、調査員、調査カードなどの確認を行った。協議事項として、現代部会から資料編章立て案をうけ、編集スタイルを時代別、分野別にするか、近代・現代の境目、重複部分の磨りあわせを行うが結論は出ず、今後も年一回位で合同部会を開き意見を固めていくこととした。また、事務局より活動報告があり、調査終了文書、現在調査中の諸家文書、旧町村役場文書等の進捗状況の説明がなされ、埼玉県行政文書・新聞記事調査の作業方法について協議を行い、四月より本格的に調査することとした。

2 平成二四年度第一回近代専門部会

(平成二四年四月一五日、市立熊谷図書館)

事務局から活動報告として配布資料をもとに、調査終了文書、現在調査中である諸家文書の説明がなされ

た。今年度から作業を開始する埼玉県行政文書の調査方法を検討し、五月から調査に入ることとした。また、資料編の目次案、編集方法について協議を行い、今後の検討課題となった。最後に、市立熊谷図書館蔵の元素楼文書を見した。

3 平成二四年度第二回近代専門部会

(平成二四年七月二九日、市立熊谷図書館)

事務局からの活動報告として、調査終了文書(間々田青木克広家、妻沼小島小林義勝家など)、現在調査中の諸家文書、埼玉県行政文書調査、新聞記事調査の進捗状況の説明がなされた。他に市立熊谷図書館蔵の新聞・雑誌調査などの報告があつたが、昭和戦後資料のため当面調査の必要はないとの意見がなされた。協議事項としては、以後調査可能な史資料の所蔵機関・所蔵者などについて話し合い、不在となっている産業・経済担当委員の選定などを検討した。

3 平成二四年度第三回近代専門部会

(平成二四年一二月一六日、市立熊谷図書館)

事務局からの活動報告として、調査終了文書(松本光弘家、上奈良篠澤靖雄家など)、旧町村役場文書調査、

埼玉県行政文書の調査、新聞記事調査の進捗状況につ

固めていくこととした。

いて説明がなされた。また、近代の新聞記事の調査方法、国文研など他機関所蔵の文書調査を事務局へ指示し調査を進めていくこととした。続いて各委員より調査状況を報告しあい問題点や意見交換がなされた。懸案事項である資料編目次案、編集方法を引き続き協議し、次回会議で各委員の守備範囲で項目を立てて進めていくこととした。

2 平成二四年度第一回現代部会

(平成二四年四月八日、妻沼展示館)

今年度より本格的調査が開始となり、熊谷市永年保存文書(旧熊谷分)目録調査を荒井委員が行い、その調査結果を報告した。永年保存文書調査方法の協議では、旧妻沼分から調査を開始して、その後旧熊谷分に着手することとして、事務局には各課への調整を依頼した。今後は担当委員で調査計画をたて部会で進めていくこととし、別に新聞記事調査開始に向けて確認事項を整理した。会議後、熊谷市永年保存文書目録(旧妻沼分)を各委員で閲覧して、調査の準備を行った。

六 現代専門部会

現代専門部会長 黒須 茂

1 平成二三年度近代・現代合同部会

(平成二四年二月一九日、商工会議所)

平成二四年度から本格調査に入るため、調査活動日数、調査機関、協力員、調査カードなどの確認を行う。現代部会が担当する時期の資料編章立て案を近代部会に提出し、協議を行う。特に時代別、分野別か、近代・現代の境目、重複部分の担当を協議したが結論は出ず、今後も年一回位で合同部会を開き意見を

3 平成二四年度第二回現代部会

(平成二四年七月一五日、市立熊谷図書館)

事務局より活動報告をうけ、特に新聞記事、埼玉県行政文書調査の進捗状況を確認した。新聞記事調査を踏まえ採録基準を修正し、より円滑に作業できるように指示した。他に、プランゲ文庫新聞・雑誌の熊谷関係

の収集を事務局に依頼し、市立熊谷図書館蔵の地方紙は担当委員が調査して必要分のみ収集する方針になった。各担当委員の進捗状況を確認、意見交換を行った。また、熊谷市永年保存文書調査の方法等を確認して、実際に調査を始めることにした。文書所在確認調査で旧村長・町長、助役などの関係者にも確認してほしい意向を事務局に伝えた。

4 平成二四年度第三回現代専門部会

(平成二四年一〇月一四日、妻沼展示館)

事務局からの活動報告をうけ、諸家文書の中からも現代に必要な史料がないか確認し、今後旧村の状況がわかる史料を他市の史料からでも補う必要があるとの意見が出た。他には、各担当委員の調査状況、とりわけ熊谷市永年保存文書調査の進捗状況を確認し、ほぼ終了の見込みであることを確認した。今後は、刊行物などからも分析していくと共に、前回の合同部会からの懸案事項である、編集スタイル、時期区分を近代部会と協議すべく年度末までに合同部会を設けたい意向を示した。会議終了後、各委員で事務

局にある資料から個別調査を行った。

・熊谷市永年保存文書調査(旧妻沼分)について

平成二四年八月二十七日、妻沼行政センターにて永年保存文書の閲覧許可を得て調査を行った。妻沼行政センター二階相談室(旧助役室)で史料の閲覧、撮影を行った。文書の出納、撮影作業は事務局が行ったが、調査は一日で終了せず、九月一〇日、九月十一日、十一月三日、十一月四日、十一月三日、十一月十七日に実施した。本庁に保存の文書は、荒井悦郎委員が一月六日、十一月八日に調査を行った。一月中旬に部会での調査は終了し、他は追加で作業することとした。また、棚にない文書がいくつかあり、事務局に各課に問合せを依頼することとした。撮影した文書は、事務局が整理後、各委員へ提供されている。

七 民俗専門部会

民俗専門部会長 飯塚 好

第一回民俗専門部会

日時 平成二四年二月一八日(土)午後二時より

場所 熊谷市立妻沼中央公民館小会議室

内容 ①民俗編の章目次立てについて検討した。②民俗基礎調査「衣生活」(妻沼地域編)の結果報告があった。

第二回民俗専門部会

日時 平成二四年六月二日(土)午後一時三〇分より

場所 熊谷市立熊谷図書館第二会議室

内容 ①民俗編の章目次立てについて確認した。②本年度の調査執筆活動についての年次計画の検討を行った。

第三回民俗専門部会

日時 平成二四年九月二九日(土)

場所 熊谷市立熊谷図書館第二会議室

内容 ①民俗編の執筆状況の確認②古写真の一覧

第四回民俗部会

日時 平成二四年一二月二二日(土)

場所 熊谷市立熊谷図書館第二会議室

内容 ①民俗編の執筆状況の確認②今後の編集作業についての計画について

調査

①口頭伝承、妻沼聖天様、原井、妻沼、上中条、今井などの現地調査、

②生産生業、原井、下増田などの現地調査

③民俗芸能調査、木遣り、下川上獅子舞

④文書調査、埼玉県立文書館で高柳の高橋家文書

⑤写真撮影及び調査

久保島、オシシヤマ、

妻沼聖天様の祭り

高柳、厄神除け

小島、上川原棒術

石原、赤城神社の大祓い

地藏様、弥藤吾、

夏祭り、東別府、善ヶ島

八 妻沼聖天山の建築専門部会

妻沼聖天山の建築専門部会長 大河直躬

1 平成二三年度第二回専門部会会議

(平成二四年一月一九日)

各委員から活動報告があり、調査の進捗状況を確認

した。歎喜院聖天堂保存修理工事報告書の完成や最近の妻沼聖天山に関する活発な出版状況について確認し、あわせて中世専門部会による金工品の調査や仁王門仁王像の修復などの報告があった。次に来年度の計画として、文書・金石文の調査などについて検討した。

2 歴史部門担当者史料調査・会議

(平成二四年三月一〇日)

石山・細野専門調査員が群馬県立文書館にて史料調査を行った。調査では、同文書館の保管する文書を実見し、デジタルカメラにて写真撮影をした。主に近世の妻沼聖天山や妻沼村に関する文書を確認することができた。続く会議では、各委員が調査内容を報告しあい、妻沼聖天山の信仰の広がりなどについて文書から確認した。今後の課題としては、日光東照宮の職人との関係や、利根川対岸の群馬県太田市などの文書調査などが上がった。

3 歴史部門担当者会議

(平成二四年一〇月一三日)

石山・細野専門調査員が会議を行った。刊行までの調査・執筆計画を確認し、歎喜院文書などの筆耕をはじめとする調査の状況を報告しあった。そして、今後の文書調査や石造物調査について検討した。今年度は、妻沼聖天山にある石造物を調査する方向で進めていくこととした。また、絵画や絵師についても歴史的な視点で調べていくことを課題とした。

4 平成二四年度第一回専門部会会議

(平成二四年十一月二二日)

各委員から上半期の活動報告があり、調査の進捗状況を確認した。あわせて国宝指定となったことや、仁王門仁王像の修復が継続中であることなどの報告があった。続いて、本の対象や体裁などについて意見を交わし、次年度は、国宝指定記念講演会や山口県岩国市への文書調査などを計画していくこととした。

九 仏像調査専門部会

仏像調査専門部会長 林 宏一

2 専門部会会議

平成二四年六月二四日 熊谷図書館

今後の調査方針等の確認、調査方法、平成二四年度調査の計画等について協議を行った。一か月に一回程度、二〜三か寺の調査を行っていくこととした。

1 専門部会設置までの経緯

平成二二年度の編集会議において、逆史編等の編纂のため、仏像調査の早期実施が提案され、それを受け、平成二三年度に事務局と協議を行い、平成二四年度より専門部会を設置して、市内の仏像に関する悉皆調査を実施することとなった。

3 調査

一回の調査につき、五〜九名程度で実施し、すべての仏像について、写真撮影及び実測、カード作成を行った。今年度は、主に旧妻沼町地域を調査した。

編集委員については、専門調査員に調査経験が豊富な鈴木泉、西口由子、原口雅樹の各氏、特別調査員に熊谷周辺の仏教資料に精通する坂東隆秀氏を委嘱した。また、協力員として、池田伸子、内山美代子、浦木賢治、鯨井清隆、小林文、神野祐太、樋口美咲、古幡昇子、若狭杏子の各氏を委嘱した

今後は、調査報告書の刊行を目指し、市内寺社等の悉皆調査を行っていく。また、調査成果については、各専門部会にもフィードバックし、通史編等で活用できるように配慮していく。

最後に、調査先寺社の関係各位の御協力に厚くお礼申し上げます。

- ・ 八木田観音寺、飯塚来迎寺（六月二四日）
- ・ 万吉阿弥陀堂阿弥陀仏（七月二五日）
- ・ 飯塚安養院、上江袋能泉寺、原井旧遍照庵（七月三〇日）
- ・ 上江袋薬師堂、永井太田阿弥陀寺（九月一〇日）
- ・ 永井太田能護寺、永井太田正法寺（一〇月二六日）
- ・ 俵瀬成就院、大野白道庵（一一月二六日）